「いじめ」、「虐待」、「差別」の言葉の使い分けは?

連日、いじめ問題が報道されていることは、ご承知の通りです。

当 HP 上で虐待、差別等については、それなりにコメントを掲載したことがあります。 差別に関しては、【人は、自分のアイデンティティーが保てなくなり、自信がなくなると、より弱い立場のものを差別することで、安っぽい優越感と自己満足を得、つかの間の精神的バランスを保とうとしている(「雑学BN」の書籍等読後感関係(I)P、2005.02.16.「人は誰でも、差別したり、差別されたりする存在」:参照)】ようです。

また、虐待に関しては、【虐待者もさまざまな理由から自尊心が低下して、周りに強い不信感を抱え、人を信じることができない。自分以外に庇護者がいないわが子を思い通りに扱うことで、自尊心を保とうとする(「雑学 B N」の覚え書関係(II) P、2005.06.10. 「児童虐待の分類、定義等」: 参照)。】ようです。

現に、先日の NHK・ETV 特集「いじめを考える」の番組の中で、いじめる側の生徒の「いじめることで、優越感を感じる。」というような投稿メールも数通紹介さていた。

やはり、いじめの底にも、差別、虐待と共通する、相手をいじめることで「安っぽい優越感と自己満足を得よう」とする、また、相手を思い通りに扱うことで「自尊心を保とう」とする、いわゆる「心の乏しさ」のような事象が潜んでいると思えるのですが…。

こうした視点に立つと、いじめ、虐待、差別の言葉の使い分けは何なのか、よく分かり ません。

ふざけ、からかい、いじめ、虐待、差別、それぞれの言葉は、世間的にはどう使い分け をされているのでしょうか。

「心の乏しさ」は、「言葉(概念・思考の手段)の乏しさ」にも通じる側面もあること から、初歩的なことで済みませんが、これら言葉の使い分けの何かヒントをお聞かせくだ さい。

追伸:頂いた数々のヒントは、「雑学BN」のメル友・コメント等関係(Ⅲ) P、2006.11.12. 「『いじめ』、『虐待』、『差別』の言葉の使い分けは?へのコメント」に掲載していますので、参照ください。